

「外国人早期適応研修カリキュラム」研修案

企業名 (担当者名)	LPK ASIA PASIFIK EKONOMI KOOPERASI ()
テーマ (選んだ理由)	第6章「生活する/犯罪」 ()

目安時間	項目	内容
	◆事前準備物	(何を揃えますか?) 実習生：カリキュラムのインドネシア語翻訳付き教材 講師：犯罪に関する資料（実習生の犯罪事例を探す）
	◆到達目標	(到達目標は何ですか?) ・在留資格外の活動はしてはいけないことを理解する（実習生） ・マイナンバーや在留カードについて理解する ・他人に自分名義の口座を売ることが法律違反であることを理解する ・いつ、どのように 110 番をするのかを理解する
3分	◆事前課題の 確認	(疑問にすぐ答えるのではなく、皆で共有しましょう) ・インドネシアでは大丈夫でも、日本では「やってはいけないこと」があることを伝える ・在留資格によって、できることが違うことを伝える
7分	◆ウォーミング アップ	(どんな対話をしますか?) ・インドネシアでは大丈夫でも、日本では「やってはいけないこと」はどんなことがあるか? ・在留資格にはどのような種類があるか? (技能実習・特定技能・留学) ・在留資格によって何ができるか? できないか?
50分 (内、小 テスト10 分)	◆活動内容	(どんなワークをしますか?それはなぜですか?) ・在留資格の活動内容(やっていいことと悪いこと)について皆で確認する ・失踪した時のリスクについて話し合う ・講師：今までに起きた技能実習生の犯罪事例を伝える (どのように行いますか?) 1. 講師：研修用の翻訳付き教材をもとに作成したパワーポイントを用いる 2. 在留資格の活動内容について質疑応答をする 講師が補足説明をする 3. 実習生の意見や感想を聞く

コメントの追加 [0岩成1]: この章では実習生の方への事前課題は出さず、ウォーミングアップから始めるということですね?

コメントの追加 [0岩成2]: 過去の実例を示すことで実習生の方々の危機意識がより高まりますので、とても有効なケーススタディです。「自分が犯罪に巻き込まれないために、どのような注意が必要か」についても各自考え、意見を出し合ってもらいと、なお良いと思います。

		4. 実習生に短い感想文を書いてもらう 5. GOOGLEFORM で作成した小テスト(選択形式)に答える
<工夫したこと> ふりかえりとして、インドネシア語対応の小テストを実施する →説明して終わりではなく、最後に小テストを行い、各実習生の理解度を確認する。		
<成果と課題>		

